

# 「在日コリアン」の国籍取得に関する意識（2）

## 自由回答の分析から

広島国際学院大学 崔博憲

### 1 目的

本報告の目的は、第一報告と同様に、外国人を対象とした網羅性の高いサンプリング調査から得られた結果をとりあげ、「在日コリアン」の日本国籍取得に関する意識を分析することである。本報告の意義は、外国人の日本国籍取得に関する意識を直接的に問うた自由回答の分析を通じて、計量分析とは異なる角度から日本国籍取得に関する「在日コリアン」の意識や、それが他の在日外国人の意識とどのような違いや共通性があるのかを明らかにする点にある。

### 2 方法

2012年9～10月に、広島市の住民基本台帳に記載されている満18歳以上の外国籍者4000人を対象に「広島市外国人市民生活・意識実態調査」（有効回収数：1611、回収率：41.8%）が実施された。本報告では、この調査結果のなかから、「在日コリアン」（特別永住者、永住者で日本生まれの者、永住者で日本での滞在が30年以上の者）が、「あなた自身やあなたの家族などが日本国籍を取得することについて、あなたは具体的にどのように考えていらっしゃいますか」という設問に対して回答した自由記述をとりあげた。自由記述と日本国籍の取得の意思を問うた選択肢の回答との相関を踏まえ、「在日コリアン」が日本国籍を取得することについてどのような言葉や概念によって認識されているのかを分析した。

### 3 結果・結論

「在日コリアン」の自由回答を分析した結果、日本国籍の取得に関する意識について韓国籍と朝鮮籍の間に明確な志向性の違いは認められなかった。自由回答は、日本国籍の取得を日々の具体的な生活を意識しながら「必要」「自然」「便利」とする意見が大半を占めたが、他方で「民族精神に離反する」「ルーツを失う」といったアイデンティティや自己の尊厳に関わる行為ととらえる意見も少なからずあった。

在日コリアンの自由回答からは、日本国籍の取得をめぐる揺らぎや葛藤を読み取ることができた。たとえば、取得の意思を問うた設問に対しては「取得したい」を選択した回答者が、家族のために、差別を回避するために「仕方がない」、もしくは「ルーツが認められた上で、取得することが望ましい」といった記述を自由回答欄にしている場合がみられた。また、「本人の意思に任せる」といった記述も多く見られたが、それは「自分は取得しないが、家族などが取得することに反対しない」ということを意味しているのだろう。こうした記述から、「在日コリアン」が日本国籍の取得に関して複雑な意識を抱えていることがうかがえる。日本国籍取得をめぐる揺らぎや葛藤は、「在日コリアン」以外の外国人の回答にも散見されたが、そこでは日本国籍の取得を生活の利便性や権利の獲得と結び付けてとらえる傾向が認められ、相対的に「在日コリアン」に日本国籍取得をめぐる揺らぎや葛藤が強いことが分かった。